

昌子の広場

第111報

小林昌子議会報告

和泉市無所属市民派議員

小林昌子

和泉市緑ヶ丘 2-13-10

自宅 Tel 0725-54-2626

Fax 020-4669-6920

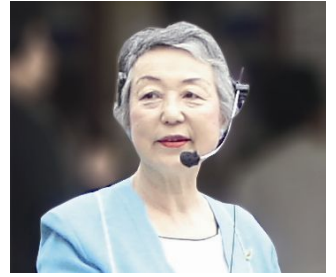
事務所 Tel(Fax)0725-53-4451

Email masakokob@ybb.ne.jp

http://masako-hiroba.info/

ホームページもご覧下さい

yahoo の小林昌子で検索出来ます



横尾川ダム意見集約出来ず 市長が公約実現を表明

まとめた。

○部会報告の考え方に基づき、「さまざまな降雨により想定される河川氾濫・浸水の危険性から、人命を守ることを最優先する」という基本理念として、地先の危険度を評価し、時間雨量65mm降雨に対して床上浸水を解消する事を治水目標に、その治水手法を検討した。

検討にあたっては、できる限り環境に与える負荷に配慮する必要があるとの共通認識に立ち、費用対効果に配慮して検討を行った。

○「河川改修+局所改修+堤防補強」案によって

- ・65ミリ降雨のさまざまなパターンに対して床上浸水を解消する事ができる。
- ・最もコストがかからない
- ・環境に対して与える影響も「ダム」案と比較して格段に小さい
- ・堤防補強を実施することにより、65ミリを超える降雨(超過洪水)に対しても効果を発揮することで、一致が得られた。

○「河川改修+ダム+堤防補強」案については

- ・65ミリ降雨に対する治水効果について、詳細な検討がなされておらず、疑問視する意見がある(※)
- ・コストから見て、「局所改修」案と比較して最小ではない
- ・環境に対して大きな変化や影響を与える事が指摘された。

○「ダム」案については委員会において詳細な検討がなされたわけではないが、ダムに拠らなくても対応可能な治水手法がある。

以上のことから、「河川改修+局所改修+堤防補強」案がもっとも妥当な選択であると判断する。

(※) 65ミリ降雨でも、降雨パターンによってはダムの治水効果は小さくなる(その集水域が流域の6%しかなく、ダム流域での降雨量が少ない場合には効果が著しく低下する)との意見がある。

当日はさまざまな意見が出されました。前日までの報道ではダムに頼らない方法で横尾川の治水を考える案

| | |
|----------------------|------|
| 目次 | |
| ・横尾川ダムで委員会の意見集約出来ず | P1-2 |
| ・市長が市民税、上下水道の引き下げを表明 | P3 |
| ・昌子の広場 | P4 |



大阪府河川整備委員会でまさかの展開

11月2日第9回の河川整備委員会が開催され、傍聴しました。当日は橋下知事も出席し、委員は13人のうち12人の出席がありました。委員長が示した案は以下のようになっていました。横尾川の治水対策に対する意見(委員長/たたき台)委員会における審議の結果、以下のように意見を取り

が優勢ともとれるものでしたが、当日の印象は少し違いました。

委員会の意見がまとまらなかったのです。最後に知事の要請で委員の考えを知りたいとの事で採決に入りました。

それまでの意見表明で委員長案に原則賛成だ。ただしこの案を取るなら行政は相当の覚悟をしてほしいと表明されていた久委員が、採決の時には保留となりました。

又1回目の採決時は挙手で行い、そのときは挙手して委員長案に賛成していた増田委員も結局は起立しませんでした。

1回目は挙手で採決を取りました。そのときは賛成した委員は宮本委員、堀野委員、増田委員、前迫委員の4人です。ただし欠席の石田委員は委員長案に賛成との事でした。又早退した中島委員は委員長案に賛成と言いついて退席されましたので賛成は山下委員を入れると7人です。

反対した委員は中川委員、道奥委員の2人でした。保留した委員は久委員、堀委員、多々納委員の3人です。弘本委員の採決は小林には分かりませんでした。しかし挙手は非常に分かりにくかった為今度は起立して賛否を問うことになりました。

起立者は宮本委員、堀野委員、前迫委員、山下委員の4人でした。

ここで山下委員長は反対者の起立を求めず、委員長案に賛成をしない委員は一週間以内に意見を提出し、それを委員長案にホッチキス止めして提出すると決定しました。

ここまで我慢を重ねて、山下委員長が取りまとめに苦労されたのを遠くから見ていましたので、このような結末もやむを得ないかも知れませんが、ここは一番、反対者の起立を求めて欲しかったとの思いがあります。賛否を決するのは非常に苦しい時があります。でも委員としての職責を果たすには賛否をはっきりすべきだと思います。時間をかけて議論した案件に保留などの解はないはずです。

これで榎尾川ダムの行方は混沌としてきました。午後からは知事の記者会見があると聞いていましたが、知事はどのような感想を持たれたのでしょうか。最後に今回も又大阪府河川整備室の情報のあげ方に大きな疑問を持つ案件が露呈しました。

宮本委員の発言で明らかになりましたが、上流部では60cmの余裕高を見ていたこと。又河川改修においては右岸側に3メートルの河川管理用道路をつける案になっているそうですが、実は但し書きがあって榎尾川上流部の河川では管理用通路は不要だとのこと。解説書を書いた本人が言っているのだから間違いはありませんと宮本委員が発言し、笑いが起きました。必要がないのに知事にも管理用道路は作ると説明していたようです。

これは費用を多く取らせて、改修案を不利にするつもりだったのかと勘ぐりたくなります。前回の委員会でも掘り込み河川の余裕高について、情

報を隠蔽していた事が明らかになっていますが、今回も又同様の事が起こりました。

正確な情報を挙げてこそ偏らない判断が可能ですが、そもそも情報が偏っていたのではおのずと判断も偏ってしまいます。大阪府河川整備部には早く目を覚まして欲しいと思いました。

孤軍奮闘して下さいました宮本委員が、ダムを作る事しか考えがなく、真に治水のあるべき姿を考えようとしない大阪府の姿勢に反発し、橋下知事に委員を辞職する旨を伝えたようです。大阪府にとって大きな損失となるのは明らかです。

後は橋下知事の判断を待つしか仕方がありませんが、新しい治水の考え方の導入を主張してきた知事ですから、正しい判断がされるものと期待しています。着工したダムが中止になる全国で初めてのケースをむざむざ捨てることの無いよう願っています。知事は今年中には判断するとの事です。

府整備委 代替案「保留」5人

榎尾川集約できず「幕」

昨年9月に榎尾川が「ダムは流りたくない」と榎尾川ダム（和泉市）の建設を命じて1年余、議決を断り続けていた府河川整備委員は11日、各委員の意見を踏まえ、橋下知事に提出し、結果として榎尾川ダムの建設を断った。昨年9月に提出した面でも榎尾川ダム（和泉市）の建設を断った。昨年9月に提出した面でも榎尾川ダム（和泉市）の建設を断った。

| 氏名 | 基本姿勢 | 主な意見 |
|--------------------------------|------|---------------------------|
| 石田裕子 (摂南大理工学部講師) | 代替案 | ダムは環境に与える影響が大きい |
| 多々納裕一 (京大防災研教授) | 保留 | 治水手法をめぐる議論が十分でない |
| 中川一 (京大防災研教授) | ダム | 想定以上の洪水に有効で、事業も進んでいる |
| 中嶋節子 (京大院准教授) | 代替案 | コスト、環境で有効だが、実現性などの検討が不十分 |
| 久降浩 (近畿大総合社会学部教授) | 保留 | 流域治水に重要なまちづくりの議論が不十分 |
| 弘本由香里 (大阪ガスエネルギー文化研究所特任研究員) | 保留 | まず地域住民らとの十分な対話が必要 |
| 堀智博 (京大防災研教授) | 保留 | 実現可能性などの比較が未検討 |
| 堀野治彦 (大阪府立大院教授) | 代替案 | 当面の治水目標に有効で、コストも安い |
| 前迫ゆり (大阪産業大院教授) | 代替案 | ダムを回避すれば、多様な生物相を失われる |
| 増田昇 (大阪府立大院教授) | 保留 | まず工程や効果発現のめどなどを立てる必要 |
| 道奥康治 (神戸大院教授) | ダム | 代替案は基本方針の治水目標と整合しない |
| 宮本博司 (元淀川水系流域委員会委員長) | 代替案 | 命を最優先し、ダムなどできるだけ頼らない |
| 山下淳 (関西学院大法学部教授) | 代替案 | 知事方針に合う当面の治水目標に有効で、コストも安い |

た川別表
榎尾川ダムは、その構造・建設費など、従来のダムとは異なる。また、ダム建設に伴う環境影響も、従来のダムとは異なる。また、ダム建設に伴う環境影響も、従来のダムとは異なる。

前日までは多くのマスコミも委員会は脱ダム案でまとまるものと報道していました。

以下は前日のニューステンでの報道画面です。



「態度保留は委員の職責を果たしていない」大阪府河川整備委員会に意見書を提出

榎尾川の治水手法について議論を重ねてきたにも拘わらず、非ダム案の委員長提案に対し、5人もの委員が態度を明確にせず、判断を保留したことについて、今もって釈然としない思いでいます。

前回の10月11日の9時間に及ぶ議論を経て、11月2日には取りまとめ案を提示することに同意したのなら、採決時に委員として賛否の態度をはっきりすべきでありました。

委員の職責は委員会において意見を述べるのは勿論、採決の場面で自分の賛否を明らかにすることです。よって今回意見を保留とされた委員については職責を果たしていません。苦渋の判断を迫られる場面においても、賛否を明らかにして職責を果たすべきです。職責を果たさない委員については今後の委員会審議に参加することも含めて、知事は判断をして欲しいと思っています。

大阪府は橋下知事の判断により、今回65ミリ/Hという新たな治水目標を掲げました。この目標なら20年～30年で整備でき、費用も4000億円から5000億円との予測です。

一方従来の治水目標なら今後50年以上かかり、又費用においても1兆400億円かかるとされていました。出来そうもない目標を金科玉条のごとく掲げ、邁進するのではなく、身の丈にあった河川整備をしようとするものです。

この考えは橋下知事の言う新しい治水のあり方にもなっています。

ならば委員はこの点を十分に踏まえ、議論すべきではないかと考えます。ダム本体工事が契約されている事や、65ミリを超える雨についてはダムが有効等の意見は木を見て森を見ずの意見です。ではダムは想定以上の雨に対しても有効ですか。

結論は否です。

知事は大阪府民880万人の生命と財産を守る見地から、榎尾川流域のみ手厚く整備することは許されなはずです。大阪府内のすべての河川の治水目標を早期にクリアーすべく河川整備を進める責任があります。

一方その知事から委嘱を受けた河川整備委員会委員は職責を果たすためにも、保留という結論ではなく、公開の場で態度表明をすべきであると考えます。

委員の意見に「知事に相当の覚悟が必要だ」と発言した方が複数おられました。そう発言した方々が態度保留は解せません。

覚悟は知事にのみ求めるのではなく、発言したご本人を含め、委員にも求めたいと考えます。

知事は再度委員会を招集し、公開の場で委員の賛否を求めるべきだと思います。

昌子の日記

- 11/2 大阪府河川整備委員会傍聴、再生プラン説明会
- 11/4 和泉中央駅会報配布、URへ、緑ヶ丘女性クラブ
- 11/5 和泉中央駅会報配布、鳳土木へ、市政相談会
- 11/7 防災訓練、国税調査勉強会
- 11/8 和泉中央駅会報配布
- 11/8-12 社会保障・社会福祉勉強会 in 大津
- 11/13 万葉講座
- 11/14 尼崎市長選応援、思いやり予算勉強会
- 11/15 和泉中央駅会報配布、ダム定例会
- 11/16 和泉中央駅会報配布、尼崎市長選応援
- 11/17 光明池会報配布、事務所運営委員会、大阪府内市議会議員研修会
- 11/18 信太山駅会報配布、介護保険運営協議会傍聴
- 11/19 洋ランの会
- 11/20 Sコープ講演会、緑ヶ丘フェスタ
- 11/21 和泉丘陵ヒューマンフェスタ
- 11/22 和泉府中会報配布、議運
- 11/24 北信太駅会報配布
- 11/25 教育委員会定例会傍聴
- 11/26 大阪高裁（合意充当）、かがやけ石尾っ子の会
- 11/27 榎尾山紅葉ハイキング、大阪都構想って何？
- 11/28 自由都市・堺平和貢献賞大賞受賞記念講演会
- 11/29 和泉中央駅会報配布
- 11/30 本会議

<事務所行事> いずれも小林昌子事務所で

連絡先 自宅 TEL 0725-54-2626

事務所 TEL 0725-53-4451

(事務所 緑ヶ丘1-3-15)

万葉講座(場所 緑ヶ丘自治会館にて)

・講師 大高勇さん(全国万葉協会会員)

・会費 1,000円(3か月分) 14-16時

・87回 12/11(土) 心にのこる問答歌

<途中からの参加でも十分お楽しみ頂けます>

ちぎ絵

・講師 西原志満子さん

・材料費実費 参加費無料

・1月12日(水) 13時～16時

パソコン講座(参加費無料)

・第2、第4週の火曜 10時～12時、

同じく 木曜 14時～16時

・申し訳ありませんが現在定員一杯です。新規の方は少しお待ちいただくことにないます。

市政相談会

・第2、4水曜日 20:00～21:30